

## #06\_甘えたっていいんですカノジョですから～望海の授乳手コキ～

### ◆…望海

- ◆ 「失礼します」
- ◆ 「体調はどうでしょうか？ 少しでも良くなっていると良いのですが…」
- ◆ 「まだまだ時間はかかりそうですか？ でも、気を落とさないでくださいね」
  
- ◆ 「その…私が、ついていますから」
- ◆ 「ふう…こういうことを面と向かって言うのは、やはり苦手です。  
どうしても、恥ずかしいと言いますか…」
  
- ◆ 「でも…本心ですから。ちゃんと伝え…ます。  
何があっても、あなたは私が支えますからね？ 彼女として…」
  
- ◆ 「ふう…」
- ◆ 「今日は寧音さんが来ていないみたいですね」
- ◆ 「それくらい、わかりますよ。  
彼女が来たなら、必ず花瓶をきれいにしていきますから」
- ◆ 「そしてこの時間になつたら…彼女は来ない」
  
- ◆ 「ふつ…好都合ですね」
- ◆ 「だって、こういう日なら、2人きりでしかできないことも、楽しめますから」
- ◆ 「どうですか？  
寧音さんがいたらできないようなこと…やってみませんか？」
  
- ◆ 「私だって…彼女のように、あなたを甘えさせることくらいできるんですから」
- ◆ 「いえ…というよりも、甘えてほしいと言いますか…」
- ◆ 「だって、私はあなたの彼女なんですから」
- ◆ 「ふう…ふふふ」
  
- ◆ 「では、失礼しますね」
  
- ◆ 「こうして…頭を上げてもらって…膝枕、です」

- ◆ 「ふふ、ベッドの上で膝枕をするというのも、変な話ですが…  
ここから…服を脱いで…」
- ◆ 「胸を出すというのは…少し恥ずかしいですね。しかも…病室で…」
- ◆ 「ただ、その…ずっと入院を続いているあなたに、  
私ができることを考え、出した結論がこれなのです」
- ◆ 「入院中は性処理も満足にできません。  
なので、性的なことをするのが良いとは思ったのですが…  
あなたにとって、何が良いかと考えた結果…」
- ◆ 「特殊なプレイというか、なんというか…  
授乳手コキプレイなんてどうかなと思ったのです」
- ◆ 「そうです。授乳手コキプレイです」
- ◆ 「1人きりで過ごす入院生活、母性を求めていいるのでは？ と思いまして」
- ◆ 「…それで、いますかね？」
- ◆ 「でも、ずれていてもいいです。  
今日は私、あなたを精一杯甘やかしたいと思っているので」
- ◆ 「まあ、私も体が疼くと言いますか…」
- ◆ 「なので、これは私の自分勝手…ですので、やらせていただきます。ふふふ」
- ◆ 「あなたはただ、身を任せつつ…私の胸を、好きにしてください」
- ◆ 「ええ…なんでも、あなたのお望み通りに…揉んでも、舐めても、  
吸っても…なーんでも、していいんですから」
- ◆ 「では、失礼して…」
- ◆ 「ふふっ…期待してくださっているのでしょうか？  
もうパンパンに膨れ上がっているじゃないですか？」
- ◆ 「これは、やる気がみなぎってくると言うもの…では、いきますよ」
- ◆ 「んふっ…シコシコ…シコシコ…シコシコ…どうですか？  
強すぎないですか？」

- ◆ 「その…きっとこれくらいの強さが良いのかなと思って…」
- ◆ 「ほら、私のおっぱい、好きにして良いんですよ？」
- ◆ 「期待…しているんですから」
  
- ◆ 「あなたの口で、私の乳首を、たくさん吸って、ねぶってください」
- ◆ 「ほらほら、どうぞ！ ぱく～ってしゃってください。はい、あ～ん♡」
  
- ◆ 「あっ！ んんっ…ふうっ…♡ 胸を吸われるのって、  
こんな感じなんですねえつ♡  
ん…気持ちいい…♡ そう…ですっ、いい調子です」
  
- ◆ 「なんだか、幸せな気持ちがどんどん湧いてきて…はあっ♡  
ふう…ふう…んっ…んんっ…ふうっ！」
- ◆ 「だ、だめですね…これで私が手を止めてしまっては…」
- ◆ 「いき…ますっ…んっ、ふう…♡」
  
- ◆ 「シコシコ…シユコシユコ…んんっ！  
クチュクチュ…んっ、ふうっ…シユシユシユ…はあ…はあ…」
- ◆ 「はあ…ふう…ふう…んあつ…ふつ…んっ…くつ…んふつふうふう…  
んっ…ふあつ…んんっ…んっ…んんっ…んんっそこ…気持ちい…  
んっ…ふあつ…んふうっ…」
  
- ◆ 「ふううつ…わた…しも、負けませんよお…っ！  
んっ、ふあつ…ふう、ふうっ…」
- ◆ 「ふふっ、大きな胸が顔に乗っかる感触も、  
気に入っていただけたようですね♡  
あなたの気持ち、おちんちんからも伝わってきますよ♡」
  
- ◆ 「比較したことは無いのですが…私の胸…  
きっと、男性には喜んでもらえると思っていたので…」
- ◆ 「ふふっ、その初めての相手があなたで、とても嬉しいです」
  
- ◆ 「だって…こういう特殊なプレイなんて…  
好きな人にしかできませんから…んんっ…ふうっ！」
- ◆ 「ふふふ…たくさん吸ってくれて…気持ちいいです♡」

- ◆ 「でもこうしていると…なんだか本当に赤ん坊をあやしているみたい」
- ◆ 「ぼくちゃん♡ おっぱいチュウチュウできて気持ちいいですね～  
なんて…ふふつ！」
  
- ◆ 「…気のせいでしょうか？ 少しおちんちんの反応が良くなつたような？」
- ◆ 「こういうのも、お好きなのでしょうか？」
- ◆ 「意外に、可愛らしいところもあるんですね♡  
そういうところも、大好きです♡ ふふつ…！」
  
- ◆ 「今は私を、あなたのママだと思って…たくさん甘えてくださいね…♡」
- ◆ 「おっぱいをたくさん吸って…飲んで…もっとも～っと、  
元気になってください♡」
  
- ◆ 「多少乱暴に吸ってもいいですから…  
ぼくちゃんが、幸せになるように…たくさん気持ちよくなるように！  
むらむらしたおちんちんから、たくさんドピュドピュ出せるように～！」
  
- ◆ 「…あんつ♡ んんつ！ くうう…ふうつ、ふうつ…あうつ、ふうん…！  
ふふつ！ おっぱい吸うの上手で…ママもとっても気持ちいいです♡」
  
- ◆ 「ぼくちゃん…ぼくちゃん…ぼくちゃん♡  
ママも頑張って、おちんちんシコシコしてあげますからね～！」
  
- ◆ 「先走りのお汁を塗りたくって…ほらっ、しこしこ…ぐちゅぐちゅ…  
にゅるにゅる…ぐちょぐちょ…じゅじゅじゅ…♡」
  
- ◆ 「んふつ…んん～♡ エッチな音が、病室中に響いちゃう…んつ、あんつ♡」
- ◆ 「はあ…はあ…んつ、んふうつ♡ 切なそうな顔…♡  
ふふ…そろそろ、おちんちんからびゅるびゅるしたくなっちゃいましたかね？」
  
- ◆ 「いいですよ。たくさんドピュドピュ、濃厚精子を出して…♡  
ママがお手々がしっかり受け止めますから♡  
立派なおちんちんから、たくさんお射精するところ…  
見せてくださいな♡」

- ◆ 「ほら、ほら…！ おっぱい吸いながら、本能の赴くままに～ タマタマの中でグツグツ溜めたのを全部出しちゃえ…出しちゃえっ…♡」
- ◆ 「おちんちんをちゅこちゅこされて… 最高に気持ちのいい射精をしちゃいましょう♡」
- ◆ 「あは♡ 出る？ 出る？ 出そうですか？ いいですよぉ？ ママのお手々も受け入れ準備OKです！」
- ◆ 「ほらほらほ～ら♡ 出そう、出そう、出そう、出そう♡」
- ◆ 「あ♡ 来た来た来た来た♡ せえ～のっ！」
- ◆ 「びゅるびゅるびゅる～っ♡ どぷどぷ、どぴゅりゅりゅりゅ～♡」
- ◆ 「ぶぴゅぶぴゅ…ぴゅりりゅ～！ びゅりゅ～！」
- ◆ 「すごい…すごいです…お射精…全然止まる気配がありません♡」
- ◆ 「たくさん溜め込んでいたせいなのでしょうか？ 手の中があなたの精子で一杯にされちゃいました。はあ…」
- ◆ 「あなたの濃厚な匂い、嗅いでいるだけで…クラクラして… 体が疼いちゃいますねっ…♡」
- ◆ 「では、今日もあなたのお精子…いただきます♡」
- ◆ 「んぐっ…ぐっ…ぐっ…んふっ…ふっ…ふう…んふっ…ふう…♡」
- ◆ 「んんっ…♡ はあ…はあ…ふふっ…ごちそうさまでした。 とっても美味しかったです♡」
- ◆ 「私からも、何かお返しができればいいんですが… おっぱいはまだ出せませんし…」
- ◆ 「いつか、あなたとの子どもができれば…そういうこともできる… とも思うんですが…」
- ◆ 「なんて、少しだけ妄想を語ってしまいました。ふふふ…」
- ◆ 「あら…目をとろんとさせて… たくさん射精してしまって眠くなってしましましたか？」
- ◆ 「いいんですよ。お気遣いなく」
- ◆ 「ゆっくり休んでください」